

<結果の分析と解釈>

- ア 現在の研修に「やや不満」という回答が一番多く、また「低調である」という答えが過半数に達している。
- イ 調査①②③の中で、高い回答を示した項目から、次のように考えられる。

(表2)

調査③の結果	調査②の結果	調査①の結果
研修の時間がたりない		
人間関係に問題があり、自由に意見が言えない		
研究テーマに共通理解がたりない	低調である	やや不満
職員一人一人の研修意欲がたりない		
他の仕事が多くてそれとこころではない		
研修計画に問題がある		

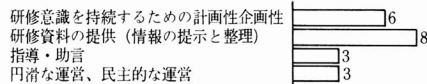
- ㉔ 「研修の時間がたりない」「他の仕事が多くてそれとこころではない」という回答については、次のような特殊事情から、短期間で解決することは困難である。
- 職員の疲労——重度障害児担当の職員は、児童登校時から、下校する午後3時までには子どものそばから離れることができず、全く休息がとれない。
  - 会議が多い——学校の歴史が浅いため、必然的に諸計画の立案・遂行のための会議を多くとる必要がある。
  - 毎日の児童・生徒の記録など、その日のうちにこなさなければならない業務がある。
- ㉕ 「人間関係に問題があり、自由に意見が言えない」という回答については、現在の日本の特殊教育界のさまざまな意見のちがいが、校内の職員の年齢差、男女差、経験差、経歴差、小・中学部等の意見のちがいが、その遠因になっていると思われる、これが「共通理解」の妨げにまで関連してくるようである。人間関係の改善は、短期間で解決に導くことは困難であると思われる。
- ㉖ 「研究テーマへの共通理解がたりない」という回答については、年度当初の、職員会議での審議では充分でなかった、と考えられる。
- ㉗ 「職員一人一人の研修意欲がたりない」という回答に対しては、「共通理解が不十分」のまま進めてきたことにも原因があったのではないか。

短期的な改善の方策を考えるポイントとして、「共通理解を高めること」と、「一人一人の研修意欲を高める

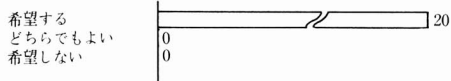
こと」の二つを押さえ、「研修計画」の中に、どのようにとりいれていくか、という研究の方向を、以上の調査から把握することができる。

(2) 研修計画・運営に関する意識調査

- ① 現職教育係の役割として何を期待しますか (図4)



- ② 研修のための資料の提供を希望しますか (図5)



- ③ 現在の研修のありかたの中で、問題点と思うこと、またこうありたいと思うことを、いくつかあげてください。(自由記述)(表3)

- 職員の教育に対する考えがバラバラである……………5名
  - 研修時間・研修内容の充実を望む……………4名
  - テーマにそった話しあいが必要である……………4名
  - 障害をもった子の専門的な知識がなくて困っている……………4名
  - 文献研究、事例研究、指導法などの研究が必要である……………3名
  - 研修内容をもう少しわしく示してほしい……………2名
- (以上、ほゞ同じものをまとめた)
- その他、時間不足、人間関係上の問題、他機関との提携のあり方等についての意見……………省略

<結果の分析と解釈>

- ア 現職教育係の役割としては、「研修資料の提供」と、「研修意識を持続するための計画性・企画性」の二項目に大部分が希望している。
- イ 「研修資料の提供」を希望している人は、同時に、「研修の充実」と「テーマにそった話しあい」の希望が多くみられる。
- ウ 「研修資料の提供」を希望している者があげている理由としては、次のようなものがある。
- 時間不足、多忙のため、資料による研修が手とり早い。
  - 学校の歴史が浅く、また特殊教育の知識が不足しているので、必要感をもっている。
  - 「テーマにそった話しあい」と「充実した研修」のためには、「研修資料」があった方が効果的である。
- エ 「研修資料の提供」を、現職教育係が行ってほしい、という希望が多いが、これは一人一人の研修としては最善の方法とは言えない。
- また、この方法は、係の負担も大きいわけである。しかし、「多忙である」、「学校の歴史が浅い」、「特殊教育の経験の短い職員が多い」という、本校の特殊事情からは、ある程度、係の負担とリードは、やむを得ないのではないかと考えられる。
- オ 調査(1)の③の結果と、調査(2)の結果を結びつけて考えると、次のようになる。